

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	環境振動予測情報小委員会	
主 査 名	山中 祐一	
就任年月	2019 年 4 月	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	
委員長名	秋元 孝之	
主 査 名	松本 泰尚	
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境振動の予測に必要な情報の集約化・共有化を図り、予測の精度向上や簡便化に役立てることを目的とする。特に、実務者が困っている点の抽出と対応に重点を置いた検討を行い、成果を会員に公表して環境振動問題の改善に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度：2016 年に調査・報告した環境振動の実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方法や内容を定める。</li> <li>・2 年度：初年度に定めた活動を実施する。例えば、2018 年度に作成した予測解析検討例の予測・検証事例を追加し、下記①～③に関する情報を抽出する。</li> <li>・3 年度：2 年度までの検討結果等から下記①～③に関する情報で、会員に公表すべき内容を作成する。</li> <li>・4 年度：3 年度に作成した技術情報を会員に公表する。</li> </ul> <p>①目標値・安全率の設定（設定根拠を説明できる指針等の要望）          ②加振力の設定・実測（データの蓄積やデータベースの公開を要望）          ③応答予測モデルの妥当性確認（特に地盤のモデル化）</p>	
委員構成 (委員名（所属）)	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：山中 祐一（J R 東日本建築設計）                  幹事：緒方 誠二郎（鹿島建設）                  幹事：佐野 泰之（愛知工業大学）                  委員：石田 琢志（戸田建設）                  委員：片迫 幹男（フリーランス）                  委員：佐伯 兼久（フリーランス）                  委員：杉田 朋哉（積水ハウス）                  委員：鈴木 健司（戸田建設）                  委員：田中 靖彦（安藤・間）                  委員：福間 智之（日建設計）                  委員：船積 宏彰（東急建設）                  委員：増田 圭司（フジタ）                  委員：三橋 祐太（構造計画研究所）                  委員：三輪田 吾郎（大林組）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	63,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有                  委員会 HP アドレス：  <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html</a></p>

項 目	自己評価
委員会開催数	6回（年度内計画1回（2023年2月28日）を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境振動の予測に対して、実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方針や内容に沿って、各委員が設定した環境振動予測問題に対して具体的な検討を行った</li> <li>2. 前年度（3年度）に定めた取りまとめ方針に則り、技術情報を会員に公表するための資料集を作成した</li> <li>3. 以上により、最終年度活動計画で定めた目標は達成できた</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境振動設計検討小委員会との連携</li> <li>2. 環境振動企画WGとの連携</li> <li>3. 小委員会成果の公表方法</li> </ol>

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価 ◯ 最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A</div> <div>B</div> <div>C</div> <div>D</div> </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会設置期間である4年間の多くがコロナ禍での開催となったが、初年度6回、2年度4回、3年度6回、最終年度6回、合計22回の小委員会を開催し、Web会議も活用しつつ多くの議論や報告を含む小委員会が開催できた</li> <li>2. 環境振動の予測に対して、実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方針や内容に沿って、大きく以下の2項目について検討を行った             <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 簡易な鉄骨造1スパン試験体での実測結果に対して、各委員があらかじめ予測解析(ブラインド解析)を行い、実測結果と照合することで予測精度やばらつきに対して議論を実施し、技術情報として整理した</li> <li>b. 各委員が設定した環境振動予測問題に対して具体的な検討を行い、技術情報として整理した</li> </ol> </li> <li>3. 小委員会設置期間中には学術講演梗概集に6編(2019年度5編、2022年度1編)の発表を行い、他の小委員会との連携(設計小委員会、企画WGなど)としても第38回環境振動シンポジウムに小委員会の成果を2題発表することができ、活発な活動を行うことができた</li> <li>4. 当初予定していた小委員会の開催数には十分達しており、4年間を通した目標も概ね達成できる見込みがあること、ならびに小委員会の成果を取りまとめた技術資料(上記2-a)が公表できること、などを勘案し、総合評価は「A」とした</li> </ol>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者の評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。